

平成26年度 航空機生産・輸出・受注額見通し

(一社)日本機械工業連合会が実施する「平成26年度機械工業生産額見通し調査」に関する調査依頼を受け、当工業会は会員企業25社の協力を得て「航空機生産・輸出・受注額見通し」の調査を実施した。

21年度に1兆円を下回った生産額は、緩やかに回復した後25年度に大幅な増加をみた。26年度の見通しでも1.5兆円弱のレベルを維持していることが、今回の調査で確認された。その要因として、25年度、26年度ともにBoeing777や787等民間機向けの生産増を背景とした「機体部品」「エンジン部品」の増が挙げられる。

また、21年度に大幅に落ち込んだ受注額は、23年度以降、1兆円を大きく上回る受注傾向に転じていることが確認された。その要因は、25年度が防衛省向けF-35戦闘機の機体やエンジンの新規受注があったこと及びBoeing777や787等民間機向けの増によるものである。26年度もBoeing777や787等民間機向けの受注が堅調に推移していることから、今後も航空機生産の増加が期待される。

調査結果の概要について、以下に記す。

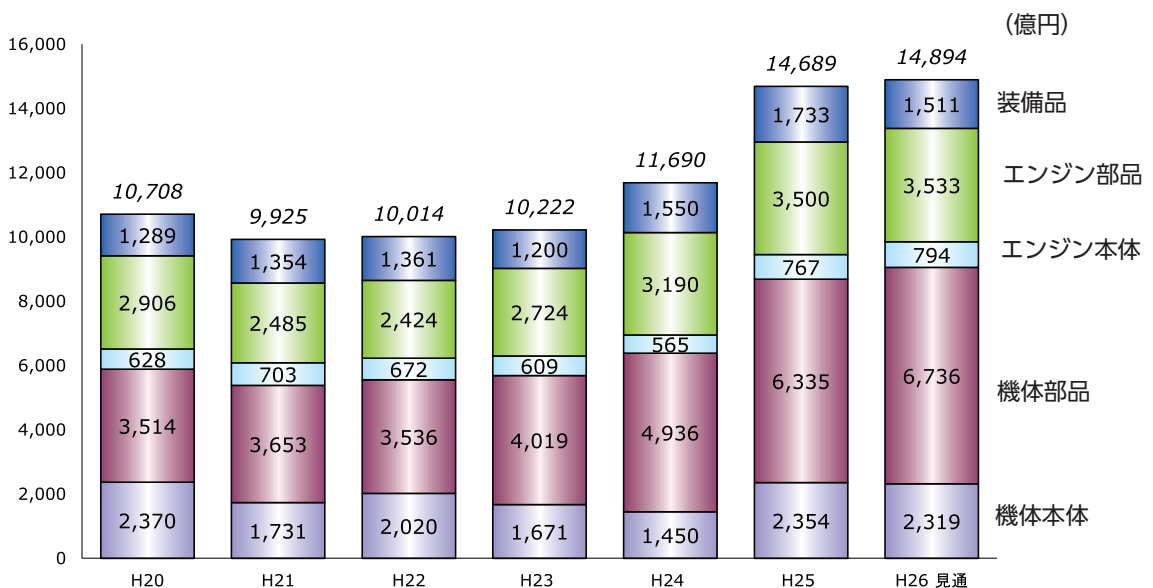
1. 生産額

(1) 全般

◇「25年度実績額」は1兆4,689億円で前年比2,999億円（25.7%）の増となった。

◇「26年度見通し額」は1兆4,894億円で前年比205億円（1.4%）増の見通し。

生産額の長期推移



生産額の長期推移

(単位：億円)

区分 \ 年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26見通
機体本体	2,370	1,731	2,020	1,671	1,450	2,354	2,319
機体部品	3,514	3,653	3,536	4,019	4,936	6,335	6,736
(小計)	(5,883)	(5,384)	(5,556)	(5,690)	(6,386)	(8,689)	(9,056)
エンジン本体	628	703	672	609	565	767	794
エンジン部品	2,906	2,485	2,424	2,724	3,190	3,500	3,533
(小計)	(3,535)	(3,188)	(3,096)	(3,332)	(3,754)	(4,267)	(4,327)
装備品	1,289	1,354	1,361	1,200	1,550	1,733	1,511
計	10,708	9,925	10,014	10,222	11,690	14,689	14,894

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇25年度は、「機体本体」は防衛省向けのヘリコプター等の増等により904億円増の2,354億円、「機体用部品」がBoeing向け777及び787用部品の増等により1,399億円増の6,335億円で、「機体合計」では、2,303億円増の8,689億円となった。

◇26年度は、「機体本体」は25年度とほぼ同じ水準の2,319億円、「機体用部品」がBoeing向け777及び787用部品の増により401億円増の6,736億円で、「機体合計」では、367億円増の9,056億円の見通しである。

②エンジン関連

◇25年度は、「エンジン本体」は防衛省向けエンジンの増等により202億円増の767億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増により310億円増の3,500億円で、「エンジン合計」では、513億円増の4,267億円となった。

◇26年度は、「エンジン本体」は海外向けエンジン修理の増等により27億円増の794億円、「エンジン用部品」が25年度とほぼ同じレベルの3,533億円で、「エンジン合計」では、60億円増の4,327億円の見通しである。

③装備品

◇25年度は、民間機向け内装品や防衛向け各種装備品の増により、183億円増の1,733億円となった。

◇26年度は、防衛向けF-15近代化改修用レーダー等を中心に222億円減の1,511億円の見通しである。

2. 輸出額

(1) 全般

◇「25年度実績額」は8,791億円で前年比2,026億円(29.9%)の増となった。

◇「26年度見通し額」は9,417億円で前年比626億円(7.1%)増の見通し。

(2) 内訳

①機体関連 (機体用部品のみ)

◇25年度は、Boeing向け777及び787用部品の増により1,436億円増の5,160億円となった。

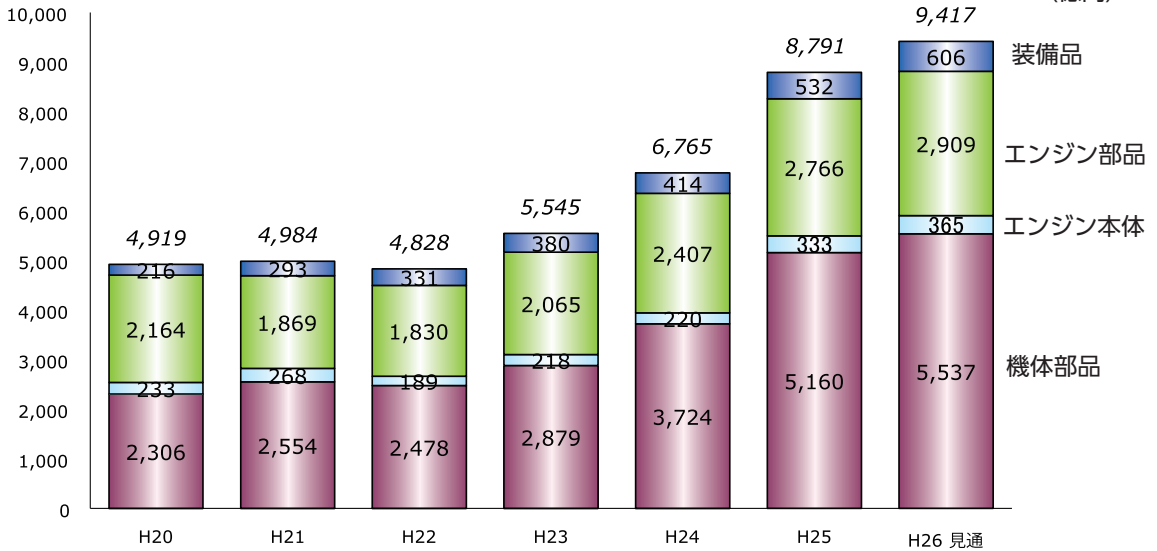
◇26年度は、Boeing向け777及び787用部品の増により377億円増の5,537億円の見通しである。

②エンジン関連

◇25年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増により113億円増の333億円、「エ

輸出額の長期推移

(億円)



輸出額の長期推移

(単位：億円)

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26見通
機体本体		0	0	0	3	0	0	0
機体部品		2,306	2,554	2,478	2,879	3,724	5,160	5,537
(小計)		(2,306)	(2,554)	(2,478)	(2,882)	(3,724)	(5,160)	(5,537)
エンジン本体		233	268	189	218	220	333	365
エンジン部品		2,164	1,869	1,830	2,065	2,407	2,766	2,909
(小計)		(2,397)	(2,137)	(2,019)	(2,283)	(2,628)	(3,100)	(3,274)
装備品		216	293	331	380	414	532	606
計		4,919	4,984	4,828	5,545	6,765	8,791	9,417

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

ンジン用部品」が海外向け部品の増により359億円増の2,766億円で、「エンジン合計」では、472億円増の3,100億円となった。

◇26年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増により32億円増の365億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増により143億円増の2,909億円で、「エンジン合計」では、174億円増の3,274億円の見通しである。

③ 装備品

◇25年度は、民間機向け内装品の増により

118億円増の532億円となった。

◇26年度は、民間機向け内装品の増により74億円増の606億円の見通しである。

3. 受注額

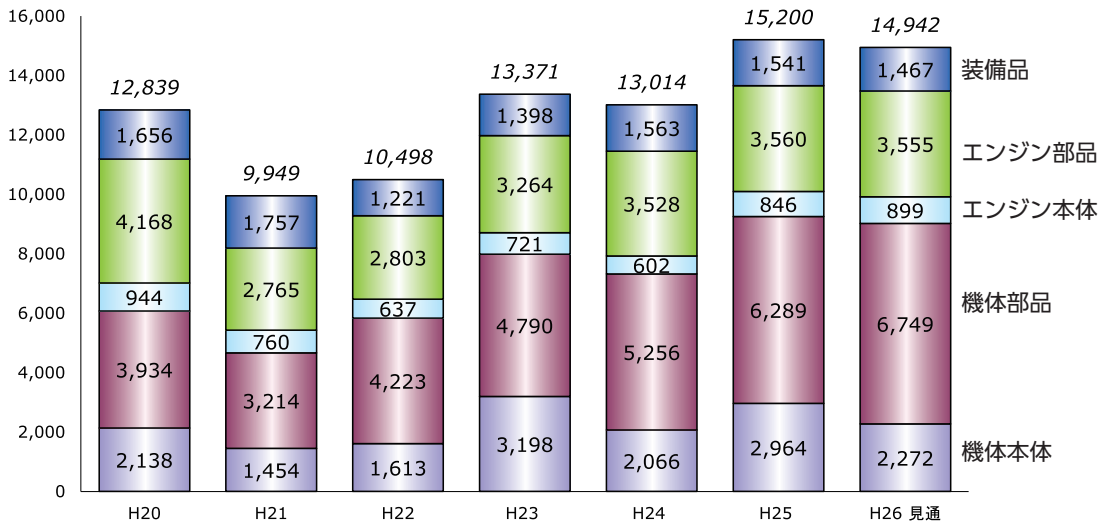
(1) 全般

◇「25年度実績額」は1兆5,200億円で前年比2,186億円（16.8%）の増となった。

◇「26年度見通し額」は1兆4,942億円で前年比258億円（1.7%）減の見通し。

受注額の長期推移

(億円)



受注額の長期推移

(単位：億円)

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26見通
機体本体	2,138	1,454	1,613	3,198	2,066	2,964	2,272
機体部品	3,934	3,214	4,223	4,790	5,256	6,289	6,749
(小計)	(6,072)	(4,668)	(5,837)	(7,988)	(7,321)	(9,253)	(9,021)
エンジン本体	944	760	637	721	602	846	899
エンジン部品	4,168	2,765	2,803	3,264	3,528	3,560	3,555
(小計)	(5,112)	(3,525)	(3,440)	(3,985)	(4,130)	(4,406)	(4,454)
整備品	1,656	1,757	1,221	1,398	1,563	1,541	1,467
計	12,839	9,949	10,498	13,371	13,014	15,200	14,942

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇25年度は、「機体本体」は防衛省向けF-35戦闘機の新規受注等により898億円の増で2,964億円、「機体用部品」がBoeing向け787用部品の増等により1,033億円増の6,289億円で、「機体合計」では、1,932億円増の9,253億円となった。

◇26年度は、「機体本体」は防衛省向けF-35戦闘機の減等により692億円減の2,272億円、「機体用部品」がBoeing向け787用部

品の増等により460億円増の6,749億円で、「機体合計」では、232億円減の9,021億円の見通しである。

②エンジン関連

◇25年度は、「エンジン本体」はF-35戦闘機用エンジンの増等により244億円増の846億円、「エンジン用部品」が24年度とほぼ同じレベルの3,560億円で、「エンジン合計」では、276億円増の4,406億円となった。

◇26年度は、「エンジン本体」は海外向け

修理の増により53億円増の899億円、「エンジン用部品」が25年度とほぼ同じレベルの3,555億円で、「エンジン合計」では、48億円増の4,454億円の見通しである。

③装備品

◇25年度は、24年度とほぼ同じレベルの1,541億円となった。

◇26年度は、F-15近代化改修用レーダー等を中心に74億円減の1,467億円の見通しである。

<調査対象企業：25社>

IHI、KYB工業、川崎重工業、小糸製作所、島津製作所、ジャムコ、昭和飛行機工業、シンフォニアテクノロジー、新明和工業、住友精密工業、東京計器、東京航空計器、東芝、ナブテスコ、日本航空電子工業、日本電気、日本飛行機、日立国際電気、富士重工業、三菱重工業、三菱電機、三菱プレシジョン、横河電機、横河電子機器、横浜ゴム

〔(一社)日本航空宇宙工業会 業務部長 杉原 康二〕